

GRASS 勉強会シリーズ 第6回
『働く大人の学びの習慣』を身につける

日時：2018年3月20日（火）19時～21時

会場：コラボオフィス mingle

◇ 課題図書

『働く大人のための「学び」の教科書』中原淳著, 2018年, かんき出版。

1. 僕たちはなぜ学び続けなければならないのか?

・「大人の学び」の重要性

- ✓ 中原氏の研究領域：「長い仕事人生を完走し、キャリアを全うするための研究」
(例：ソロプレーヤーから管理職への移行サポートに関する研究)
- ✓ 一方で、そもそも仕事人生が長期化。→山を登っておりて、また登る必要が出てきた(学び直しの必要増)
- ✓ 何もしなければ「次世代の子ども」より劣る存在になる時代 (c.f. 河合隼雄さん)

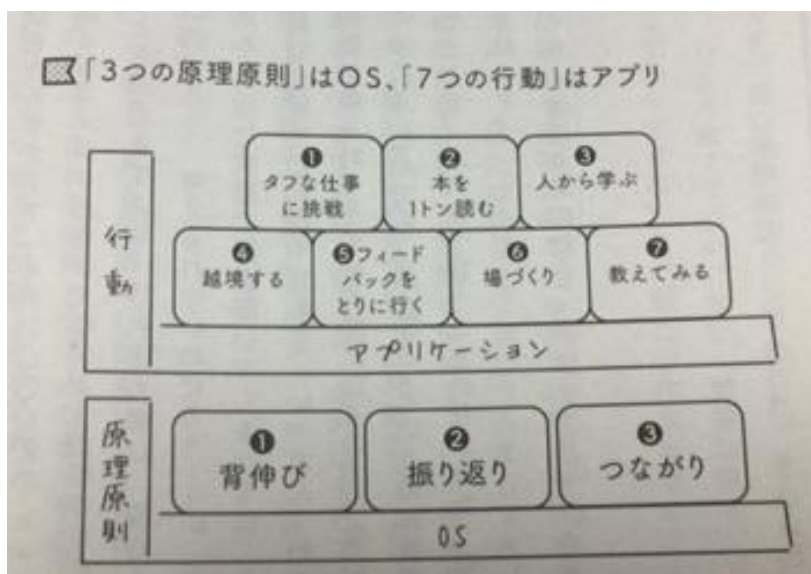
< 「大人の学び」の定義 > (p.28)

「自ら行動する中で経験を蓄積し、次の活躍の舞台に移行することをめざして変化すること」

・「大人の学び」の大前提

- ✓ 他人に学びを強制されるのではなく、自ら決めること。
(一般的に、「生存不安>学習不安」となった際に、学びのスイッチが入る (by エドガー・シャイン)
と言われるが、自ら選んで決めた方が、学びの痛みや負担が少ない。)

< 「大人の学び」の3つの原理原則と7つの行動の関係図 > (p.48)



2. 「大人の学び」3つの原則

- ①背伸びの原理
- ②振り返りの原理
- ③つながりの原理

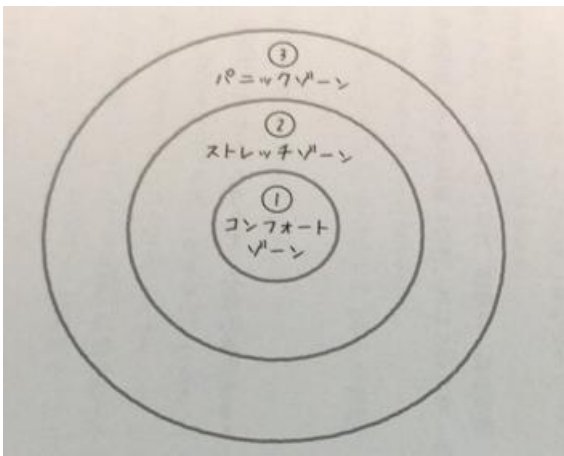
…以下、1つずつ説明。

① 背伸びの原理

今日の背伸びは明日の日常！…ルーティンやタスクをこなしていても能力は伸びない。

※ここでの背伸び＝組織学習理論における「ストレッチ」「発達のチャレンジ」のこと。

<背伸びをしようとする大人の心理状態> (p.53)



①コンフォートゾーン（快適空間）

- ・いつもの仕事をこなしている
- ・ゆったり、ほんわかゾーン

②ストレッチゾーン（成長空間）

- ・適度な背伸びの仕事を任されている
- ・能力が伸びている

③パニックゾーン（緊張空間）

- ・無茶ぶりの仕事
- ・パニック、恐怖と不安で能力どころではない

・「②ストレッチゾーン」が、大人が一番よりよく物事を学べるゾーン

・では、何から始めればいいのか？

…（1）楽しみを感じることで、（2）感謝されることにチャレンジするのがよい（pp.56-57）。

「Follow your heart!」（心の声にしたがえ）／ 「まずやってみること、が大事」

②振り返りの原理

・以下の3つの問に対して考えを巡らすこと。

- （1）What？（過去に何が起こったのか？）
- （2）So what？（どのような意味があったのか？何がよくて何が悪かったのか？）
- （3）Now what？（これからどうするのか？）

・みんな、振り返りは苦手なもの！

しかし、挑戦行動なくして、振り返りなし。振り返りなくして、挑戦行動なし。（p.74）

③つながりの原理

- ・成長にはまわりのサポートや支援が必要！

※ ロシアの心理学者・ヴィゴツキー：「人が学習するには他者が必要」と指摘。「最近接発達領域」（成長の幅のこと）を伸ばすには他者の援助やかかわりが不可欠。

- ・中原氏「つながりの原理」…能力の高いビジネスパーソンが持つつながりを調査した結果として3点。

- (1) 業務アドバイス
- (2) 振り返りの促進
- (3) 励まし・承認

★上記の原理①～③全体を通じて、成長実感を持っていない時は、下記を考えてみよう！（p.83）

- ・最近背伸びをしているか？
- ・振り返りの時間を持っているか？
- ・信頼できる人との接点を持っているか？

3. 「大人の学び」7つの行動

- 行動①：タフアサイメント＝タフな仕事から学ぶ
- 行動②：本を1トン読む
- 行動③：人から教えられて学ぶ
- 行動④：越境する
- 行動⑤：フィードバックをとりに行く
- 行動⑥：場をつくる
- 行動⑦：教えてみる

…以下、1つずつ説明。

行動①：タフアサイメント＝タフな仕事から学ぶ

- ・自分の仕事の中で学ぶのが効率的
（人生の長い時間を職場で過ごしている／仕事の現場に必要な知識・スキルは仕事の中でしか学べない）
- ・「タフ」さ、の2つの意味
 - (1) 自分の能力ギリギリで全うできるくらいの仕事の難易度である
 - (2) 会社が伸びていく方向に貢献できる前例のない困難を伴う仕事である

行動②：本を1トン読む

- ・「1トン」はメタファーだが、それくらい多読してみる、ということ。
- ・2つの意義
 - (1) 自分の中に地図を持つ
 - (2) 他者の経験や思考を代理学習できる
- ・まず関心のあるものを手に取って、じっくりきたものから読み進めること（読書にも振り返りが重要）。

行動③：人から教えられて学ぶ

- ・文字通り、自分より有能な人・経験を積んだ人から学ぶこと。(公式な教育機関の先生でなくても OK)
- ・様々な学びの場：①インフォーマルな学び、②セミフォーマルな学び、③フォーマルな学び
 - ✓ ただし①は、学びが人の縁とタイミングに左右される。自分が学びたい領域に詳しい人とのつながりを常にメンテナンスしている必要アリ。また、自らも「貢献価値」を持つ必要アリ。
 - ✓ 大人の学びは「誰から学ぶか」も重要 (特に③に関して)。
- ・「聞く→考える→対話する→気づく・変わる」のサイクルを意識すること

行動④：越境する

- ・慣れ親しんだ場所 (日常) を離れて、違和感のある場所 (非日常) に行く！
「アウェイに出かけていこう」
(例) 社外勉強会への参加、他部署の人との勉強会・対話、父母会への参加。
- ・「外に出ると通用しない」という事実が、今後の学びや変化の可能性を広げてくれる！

行動⑤：フィードバックをとりに行く

- ・第三者に、自分を映し出す鏡になってもらう。(「フィードバック探索」を取る)
- ・「ジョハリの窓」における「盲点の窓」(自分ではわかっていないが、他人にわかっていること)を開ける。
- ・注意点：
 - ✓ フィードバックは「行動レベル」で受けること。(状況 Situation・行動 Behavior・成果 Impact の SBI 情報で)
 - ✓ 通用しなくなったものは捨てること。(「アンラーニング (学習棄却)」)

行動⑥：場をつくる

- ・自らの場をつくる→人が集まる→情報が集まる上に感謝される→人が人を連れてくる→さらに情報が集まる
- ・よい関係をつくるには、まずはギブをたくさんする (最初からテイクを期待しない)。
- ・越境を重ねた人はここに行き着く場合が多い。

行動⑦：教えてみる

- ・教える側も学び手も、一緒に変わる。
- ・「学ばざるを得ない状況」を作り出す。

< 【おまけ】 コラム『学び迷子さん』にご注意！と主な対処法 >

①自分の経験至上主義病 (pp.45-47)

→一瞬、自分の経験をカッコで括って必要な情報をインプットすべし

②あの人のおススメ情報に弱い迷子さん (pp.84-85)

→ちゃんと自分の状況を見て必要な情報を選ぶべし

③インプットしすぎて頭でっかち?! 迷子さん (pp.158-159)

→まずは、学んだことを誰かに教える場をつくってはどうか

以上 (文責：今井)